CHEVROLET CORVETTE

アメリカンスポーツにも
もうひとつの可能性

超軽量かつ高剛性なGFG FM-310は、8L級のトルクを発揮するコルベットなどのスーパーマシンにもマッチ。現車が装着するリアディフューザーは日本のREVORIX製。

PORSCHE 911

ワイルド&レトロなオシャレ系

ワークスフェンダーとダックテールをミックスし、またナイスな色使いで独自の世界観を作り出している997。GFGのモデル名はFM-747。フロント19、リア20インチ。リアタイヤは345/25の極太だ。

PORSCHE GT3 RS

早くも新パッケージ発売

フォージド鍛造ホイールでおなじみのGFGが取り組むオリジナル・ファミリーのトップブランド。GFGからは早くもGT3 RS専用設計のセンターロック式FM-808が登場。

FERRARI 458 spider

ブラック×レッドのハリウッド仕様

ボディの各ポイントに鮮やかな赤を配し、コージャスかつ妖艶な印象を放つ1台。オープンモデルだけに、見られることを前提としたインテリアも外装と同色にコーディネイト。GFG FM-844装着。

FERRARI 458 ITARIA

新しい配色への挑戦

ホワイトボディに赤いレーシングストライプを入れ、2トーン化したボディにマッチさせるため、前後のホイールをパウダーキャンディで塗り分けた意欲作。FM-855にはフロント275/30-21、リア355/25-22をフィット。

FERRARI 458 spider

世界に1台の逸品

前後のフェンダーを大胆にもカットし、FRPを駆使してワイドフェンダーをワンオフ。低くきに加え迫力を増したスパイダー。リアタイヤは355/25-22。

ブラに合わせた絶妙セッティング

フェンダーアーチとタイヤのギリギリのオフセットセッティングは、自らの愛車だから出来る執行錯誤の結果。組み合わされるタイヤはフロント265/35-20、325/30-21。公道でもサーキットでも絶対に干渉することはないと言う。

揺るぎなき男の比類無き探究心

WTW Corp Inc. CEO
ディコ・スラアン

車輌ホイールというよりニューヒューマー系が全盛だった1990年代後半、アメリカ発の超高級ホイールブランド"ジオバンナ"をプロデュース。アメリカンホイールの新時代を築き上げた人物。

Wheel

GIOVANNA WHEELS

ラグジュアリー・ホイール・カルチャーの先駆者であり今なお先頭を走り続けるカリスマ、ディコ氏が率いるWTWコープ。ジオバンナをはじめとするハイエンドなラインナップは今年も健在。ホイール館の中心で高額車両の足元を美しく飾り付け見る者から感嘆のため息を誘った。

'00年代初頭から現代に続く大径ラグジュアリー・ホイールのムーブメントは、このブランドに端を発したと言っても過言ではないだろう。「Giovanna（ジオバンナ）」。アメリカを代表するビッグネームの筆頭だ。現在では姉妹ブランドにGianelle（ジェネリー）、KOKO Kuture（ココカチュール）、GFG（ジーエフジー）を展開し、世界中のラグジュアリーカーやスーパーカーに向けて、純正を上回る上質と優美を提供している。

そのヘッドクオーターであるWTW CorporationのCEOこそがディコ・スラアン。アメリカンカスタム界の重鎮であり、革新と斬新を追求して止まないホイール界きっての希代の頭脳である。

時代の変化、流行の移り変わりに適応し、今なおWTWの各ブランドがマーケットで存在感を鮮明にする背景には、ディコ氏の比類なき探究心によるところが大きい。具体例を挙げるならば、どんな高難車両でも可能な限り自ら購入するこだわりである。フェラーリ、ランボルギーニ、ベントレー、メルセデスは言うに及ばず、ポルシェ918スパイダーやマクラーレンP1といった限られたモデルも世界に先駆けて入手。惜しげも無くホイール開発のテスト車両に起用するのである。そうすれば足まわりの寸法を厳密に測定、ミリ単位でマッチするホイールが製作可能だし、ストリートやハイウェイ、クローズドコースなどで製品の実走テストが繰り返せるからだ。独創的なデザインのみならず、品質と強度がWTWのジオバンナ・ファミリーを支えてきた所以なのだ。

MASERATI GHIBLI

上級車にふさわしき上質を

マセラティ・ギブリが全国に誇っているのはジオバンナの最強ブランド、ジェネリーの20インチ革新性コレクションから、TROFEOホイールをセレクト。インパクトあるデザインと、圧倒的な剛性感のSURREY（サリー）をコーディネート。

Text & Photos | SEMA RULES

問い合わせ | GIOVANNA WHEELS JAPAN Tel:042-580-0088 www.giovannawheels.co.jp

Luxury & Exotic

Paint It, White

T2DF MERCEDES-BENZ S600

きわ立つS級ホワイトニング。

このクルマと向き合った瞬間、多くの人は「ノーマル?」と思うかもしれないが、しかし、存在感は格段に向上している。もちろん22インチへと拡大されたボディ同色ホイールの効果は間違いなく発揮されているが、それだけではない。その秘密を探るため、ディテールに追ってみよう。

Text｜日比野智巳　Photos｜山田泰弘

愛車を個性的に仕上げたい。ドレスアップやチューニングを好むユーザーであれば、誰しもが少なからず抱く希望である。「どんなクルマとも違うオリジナルティが欲しい」となると、やはりアフターパーツに頼りがちになってしまう。しかし、大枚叩いて闇雲にパーツを取り付ければ、それで満足できるのだろうか?

ここに登場したメルセデス・ベンツS600を見ていただきたい。決して手数は多くないが、ノーマルと比較すると“代わり映え”したスタイルに仕上げられているのがわかる。Sクラスは説明不要の高級車なのだから、過激なドレスアップやチューニングを施して本来持っているパフォーマンスや乗り心地をスポイルしたくはない、と思うオーナーも多いはず。このS600をじっくりと見て、何が付いているのか? 何が違うのか? 見れば見るほど、実はあまり変わってないことに気付き逆に驚かされた。基本的に変わっている（取り付けている）パーツといえば、ホイールとトランク・スポイラーぐらい。他は、純正パーツをブラックやホワイトでカラー・マッチングさせたぐらいなものなのだ。

では、じっくり見ていこう。本来は、クロームパーツとなるエンブレム・マスコット、グリルをボディ同色でペイント。ボディサイドでは、ドア下に付くモールをホワイトに、さらに窓枠のモールはブラックとした。ちなみにサイドミラーは、本来は全体がボディ同色なのだが、付け根部分とウインカー下側部分をブラックカラーとした2トーン仕様に。トップ（屋根）もブラックカラーでペイントし、グラスルーフかのようなルックスとなっている。リアでは、トランクエンドに備わるはずの「S600」エンブレムと取り除き、クロームのスリーポインテッド・スター・エンブレムをホワイトでペイントした。

そして、極めつけの1点をホイールに集約。KOKO KUTURE「SARDINA 5」の22インチを装着。そのツライチのオフセットもさることながら、特注でボディカラーとマッチングさせる凝りようである。

最後にもう一度このS600を全体的に見てほしい。もうおわかりいただけただろうか? ボディからメタルカラーを排除して、ホワイト&ブラックのモノカラーでまとめているのである。

グリルやエンブレムといったクロームパーツ類は徹底的にホワイトカラーにペイント。純正パーツでもこうしてカラー・マッチングさせることで“個性”を造り上げている。

KoKo Kuture SARDINIA-5 22inch
各部マッチペイント
ホイール
グリル
ボンネットマスコット
エンブレム
ルーフ ブラック
ウィンドウモール ブラック

窓枠にステンレス・モールが付くのだが、そこもブラックカラーでペイント。また、ブレーキキャリパーもブラックカラーでペイントしている。

ボディカラーにマッチさせた特注カラーのホイールを装着する

KOKO KUTURE［ココ・カチュール］「SARDINA 5（サルディーナ・ファイブ）」の22インチをチョイス。フロントは9Jのインセット35mm、リアは10.5Jのインセット38mmとなる。

問い合わせ｜T2DF Giovanna Wheels Japan　Tel:042-580-0288　www.giovannawheels.co.jp　車両協力｜ブルートー　Tel:042-505-6417